

各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会 視察研修報告

1. 日程

平成 27 年 8 月 5 日（水曜日） 10:00～12:00

2. 視察地

愛知県半田市役所（半田市東洋町 2 丁目 1 番地）

3. 視察趣旨

新庁舎を建設した自治体の視察を通じて、新庁舎建設に関する検討の参考とする。

4. 出席者

福島茂副委員長、神谷和孝委員、犬飼利嗣委員、柳原幸一委員、森勇委員、熊崎敏雄委員、藤井孝一委員、花田澄子委員、三浦真由美委員、柴山拓治委員

5. 視察自治体概要：

人 口	118,647 人（平成 27 年 7 月 1 日現在）	
世 帯	48,747 世帯（平成 27 年 7 月 1 日現在）	
面 積	47.24 k m ²	
新 庁 舎 概 要	敷 地 面 積	13,165.90 m ²
	延 べ 面 積	15,181.03 m ²
	構 造 規 模	鉄骨造一部鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 5 階塔屋 1 階、免震構造
	工 期	平成 25 年 8 月～平成 26 年 12 月
	建 設 工 事 費	51 億 5,231 万 5,080 円

6. 視察概要

(1) 半田市副市長あいさつ

(2) 各務原市副市長あいさつ

(3) 事業概要説明（半田市総務部総務課長）

(4) 庁舎見学



建物外観



総合案内



エントランスロビー



災害対策本部室



災害対策本部室の大型モニター



議場



案内サイン



市民窓口(税務課)



受付カウンター(上下水課)



待合スペース兼通路



キッズスペース



執務空間



打ち合わせコーナー



免震装置の説明を受ける



免震装置（接続型スイッチダンパー）



みんなのトイレ



みんなのトイレ(サイン)



市政情報コーナー

(5) 質疑応答

問：基本計画時点での新庁舎建設候補地と、その後最終決定されるまでの経緯はどのようなものでしたか。

答：計画当初より現在の場所に建設を考えており、市民、議会から反対意見はありませんでした。東日本大震災の発生を契機に、津波被害が懸念される本敷地で問題はないのかという議論が起こりました。本敷地を含む4箇所の候補地について、長所・短所を検証した結果、長所（行政機能が集中している、庁舎を津波避難ビルとして活用することで別途新たに津波避難ビルを建設する必要がなくなる等）が多かった現在の場所が最適であると判断し、最終的には市長が決断しました。その後、市政懇談会の場で市長より直接住民に説明しました。

問：市民にとっての利用のしやすさが意識されているが、実際に利用した市民からの評判はどうか。

答：概ね良好です。旧庁舎は動線が悪かったのですが、新庁舎は窓口への案内もスムーズになりました。ただし、サイン計画について、見にくいという指摘も受けました。また、現在外構工事中で、隣接する市立病院と駐車場を共用しており、駐車場不足に対する苦情が多くあります。赤ちゃんの駅（授乳スペース）について、複数利用者がある際のプライバシーの確保や、温水の提供に関する苦情があり、対応しました。利用を開始してみないと分からないこともあります。

問：PFIによる整備の方針が、市長が交代してから変更になった経緯はどのようなものでしたか。

答：新市長は借金を懸念しており、PFIの整備では平準化ができるが毎年の負担は生じるため、借金をしない形で新庁舎を建設したいという考えによるものです。

問：入札によるJV代表者が決定した後、地元企業とのJVはどのように決定しましたか。

答：半田市よりJV可能な地元企業10社のリストをJV代表者に提出し、JV代表者が各企業と交渉を行いました。交渉の記録を市に提出させ、JV構成員の決定を確認しました。

問：新庁舎の建設にあたり、市民のためにどのような機能を新たに取り入れたか。

答：「命を守る新庁舎」というコンセプトを元に、レストランを1階に配置した。1階に配置されることで、現在整備中の庁舎前の市民広場と連携をして炊き出しを行うことができるような形としました。

問：廊下や執務空間が十分に広く確保されているが、本施設が津波避難ビルであり緊急時避難者を受け入れることができるようにするため余裕を持って計画されたのですか。

答：津波避難ビルであるから面積を大きくとっているわけではありません。行政規模による最低限必要な面積を確保しつつ、課が増えるなど将来想定できる需要に対応できるように現時点では余裕を持たせています。通路が待合スペースを兼ねているので、広い幅が確保されています。また、車いす利用者にとって無理なく利用できるため余裕のある廊下幅に設定しています。執務室に関しても、車いす利用の職員に配慮をしています。

問：防災倉庫等の備蓄量はどの程度確保されていますか。

答：半田市では分散備蓄の考え方を採用しており、地域の避難所に物資が備蓄されています。新庁舎には300人分の水や食料が備蓄されています。理想的な備蓄量を全て行政側で確保することは難しく、市民自ら必要な物資を確保するよう啓発しています。

問：災害時、障がい者や高齢者の避難に対する特別な配慮は考えられていますか。

答：災害時に限らず、平時においても障がい者にとって快適に利用できる施設となっています。障がい者団体等との意見交換会を開催し、みんなのトイレ（多目的トイレ）等に意見を反映しています。新庁舎には和室があり、高齢者等が災害時一晩を快適に過ごせるよう配慮しています。

問：職員は各自のデスクで飲食することは可能ですか。

答：自席での飲食は禁止で、蓋付きの飲み物は認めています。庁舎内では職員専用の休憩室や1階レストラン等にて飲食を行うこととしています。

（6）各務原市新庁舎建設基本計画策定委員会副委員長あいさつ